

第4回 西部圏域児童発達支援事業所情報交換会

- 日時：令和8年3月10日（火）10時～11時30分
- 場所：総合療育センター 第1会議室
- 参加者：13事業所 17名 + 療育センタースタッフ
- 内容：講義 なんでも質問箱
講師 総合療育センター 小枝 達也院長



今年度最終回は、事前に参加事業所からいただいた質問に小枝院長がお答えする、Q&A形式で行いました。内容を一部抜粋してお伝えします。

Q) 愛着に不安を感じる親子への支援

- 「愛着」は子どもから親への表現、愛着の基本は信頼であり「親の基準がぶれないこと」が大切。
- 親に自信を持ってもらう（うまくいったという実感があると変わる場合もある）。
- 関わり方を口頭で伝えるのみでなく、保育者が遊ぶ様子を見せながら伝えるとよい。

Q) 子どもに求めすぎてしまう親への支援

- 求めすぎないことを伝える。時には「なるようになる」の視点を持つ。
- 支援者が期待させすぎない対応が重要。
- 「輪ゴム」に例え、引っ張りすぎない、輪ゴムが切れそうになっていないかの見極めが支援者に求められる。

Q) かんしゃくもちの子どもへの支援

- 切り替えに必要なのは、過去と今、今と未来の関係性 時間軸の理解が大切。
- できたことをほめ、次回もしようねと伝える。
- 次回できたとき、大人が見落としてしまうこともある…しっかり強化。
- 子どもの行動のきりかえにスポットをあてたペアレントトレーニングができるとよい。

Q) 午睡など睡眠に関すること

- 交感神経優位から副交感神経優位にするために…手足を温める マッサージなど。
- トントンは刺激で落ち着く子、苦手な子もいる。感覚入力は個人差。
- 重いブランケットで圧をかけることで安心する子もいる。 *他事業所からの発言あり
- 入眠前のテレビやタブレットを控え、絵本を推奨（絵本はストーリー性のある短めのものを選ぶとよい）。
- ページをめくるのは大人が主導で行う。寝転ぶのが難しかったら最初はソファなどに座って導入してみる。

その他、就学先のアドバイスや選択肢についての質問も多くあり、5歳児健診のマニュアル作成や他県での取り組みなど、多岐にわたるご経験をもとに、通常学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校それぞれの特色についてなど、貴重なお話を聞く機会となりました。終了後も質問が絶えず、アンケートでは来年も参加したいとの声を伺いましたので、次年度も参加事業所等のニーズに沿った情報交換会を企画したいと思います。

お忙しい中、ご参加ありがとうございました。次年度も、様々な職種の皆様のご参加をお待ちしております。